



# 西粟倉小学校だより

No. 5

令和7年9月1日（月）

## 気持ちよく2学期がスタートしました

2学期がスタートしました。子どもたちの笑顔と話し声が集まり、校舎もうれしげに見えました。子どもたちはどんな夏休みを送ったのでしょうか？きっと、みんな、それぞれに思い出があり、話したいことがいっぱいだったことでしょう。

朝の登校の挨拶や、始業式での話の聞き方や、集合の仕方や、各教室で子ども同士の関わり合い方などを観ていると、全体的に気持ちの良いスタートが切れていたようでした。

2学期は運動会から始まり、福祉大会、修学旅行、陸上記録会等、行事が目白押しです。学習面においても、1年間の学びにおける実りの秋を迎えます。今学期も、子どもたち一人一人の成長が楽しみです。

さて、2学期も「わがごとプロジェクト」を進めていきます。具体的には、以下のようなことができた、子どもたちが実感できるようにしていきたいです。

- ①自分から学ぼうとする気持ちをもって学習する
- ②友達の考えを聞いたり、友達の学びの良さを見つけたりして、自分の学びをよりよくする
- ③友達や周りの人の考えを大切に、お互いのことを考えて協力する

## PTA奉仕作業 お世話になりました

8月19日（火）のPTA奉仕作業には、夕方から多くの保護者の方が参加してくださり、運動場の側溝の土をあげたり、草をとってくださったりと、大変お世話になりました。皆様のおかげで、大変きれいになり、子どもたちを迎える準備ができました。日頃、職員だけでは、なかなか手が回らないところ作業していただき、本当にありがとうございました。



# 始業式に話したこと

今年の甲子園、第1試合で仙台育英高校は延長11回の末、沖縄尚学高校に3-5で敗れました。その試合後の須江監督の振る舞いに、日本中で感動が広がりました。試合後、彼は、引き揚げる沖縄尚学ナインを拍手で見送り、「優勝だよ!」「優勝、優勝」「ありがとう」と声をかけたのです。

どうして、そのような行動をとったのでしょうか?彼の談話から、彼は、選手に「グッドルーザー」の姿勢を伝えたかったのではとされています。

グッドルーザーとは、「**潔く負けを認め、相手の勝利に敬意を払い、試合に関わる人たちに感謝できる人のこと**」だそうです。

勝敗ばかりに気を取られ、「相手のプレーや審判、チームメイトのせいにする」「相手の勝利を祝福できない」「感情的になってコーチや親の話に耳を貸さない」といった行為とは真逆のものです。

負けを受け入れられないほど「勝ち」にこだわり、「負けたら終わり」「勝つことにこそ意味がある」という考え方は、子どもの可能性を狭めてしまうことになるといわれています。

では「負け」をどうとらえたら、グッドルーザーになれるのでしょうか。



## 負けた時こそチャンス! 悔しさが子どもを成長させる

試合に負けてしまうとがっかりします。そこはしっかり悔しがっていいのです。しかし、負けから学べるのが、実はたくさんあるのです。

「足りない技術はなにか」「どんな練習をすればミスをなくせるか」「試合前の心の準備はどうするか」などといった振り返りや反省は、勝ってしまうとなかなかできないものです。負けた時こそ自分たちの足りなかった部分を見直し、次につなげることができます。

また、勝ったチームは自分たちと同様、もしかしたらそれ以上に練習し、前向きに打ち込んでいたのかもしれない...と、相手チームへのリスペクトの気持ちも生まれます。

そもそも勝負ができたり、自分の精一杯の力を発揮できるのは、相手がいるおかげなのです。

我々の周囲には、常に相手がいる、この相手がいることが自分自身の成長にもつながっているのです。だからこそ、我々は、周囲の人に感謝し、共に、切磋琢磨していく気持ちが大切なのです。



子どもたちにとって、人と関わる大切さを考えるときの視点になればいいなあと思って、話をしました。

2学期の学習や行事の中で、周囲へのリスペクトが感じられる姿が、子どもたちの中に観られることを期待しています。